

第2弾

患者必携「地域の療養情報」の提供に向けて2012

地域における情報発信とがん患者支援

がん患者さんの療養生活の質の向上をめざして、治療だけでなく療養生活を含めた、地域における社会的支援の活用を促す取り組みを収集し、普及する動きが広がっています。がん患者さんの支援の輪を「みんなでつくる、地域で支える」ために、どのような取り組みが求められるのでしょうか。本企画は、昨年ご好評をいただいた取り組みの第2弾です。地域における情報づくりと普及に向けた活動をとおして、望ましい協働のあり方について議論を行います。

2012年11月21日(水) 13:00-17:00[開場12:30-]

会場/〒104-0045 東京都中央区築地5-1-1

国立がん研究センター築地キャンパス内 国際研究交流会館 3階 国際会議場
対象/行政担当者、研究者、医療従事者、情報提供・相談支援関係者

参加要項

参加ご希望の方は、専用ウェブフォーム(携帯対応可)あるいはFAXにてお申し込みください。

○ウェブフォーム(PC用)

<https://ssl.formman.com/form/pc/QnDv5jRIP6kEKhOj/>

○ウェブフォーム

(携帯、スマートフォン用)QRコードはこちら▶



○FAX: 03-3547-8577

(氏名、所属(部署、住所、電話番号)、職業(資格)、メールアドレスをご記入の上、「研修会「患者必携 地域の療養情報」の提供に向けて 2012 参加希望」とお書きください)

■申込者数が定員を超過したことにより参加をお断りする場合のみ、事務局からご連絡いたします。

*記載された個人情報は本事業のみに使用します。

■参加費 無料

■定員 70名

■申込期限 平成24年10月31日(水)

(定員になり次第、申込み受付を締め切らせていただきます。)

■お問い合わせ

国立がん研究センターがん対策情報センター がん情報提供研究部 渡邊
FAX: 03-3547-8577

E-mail: HikkeiSupportTeam@ml.res.ncc.go.jp



プログラム

開会の挨拶・趣旨説明 13:00 ~ 13:20
渡邊清高(国立がん研究センターがん対策情報センター)

第1部

13:20 ~ 14:50

研修会

「患者必携『地域の療養情報』の提供に向けて
地域における情報発信とがん患者支援」

事例報告

1) 愛知県におけるがん情報の普及の取り組み

篠田 雅幸(愛知県がんセンター中央病院・病院長)

西條 正人(愛知県病院事業庁管理課主査)

2) 京都府におけるがん情報の普及の取り組み

～行政の立場から～

古川 浩気(京都府健康福祉部健康対策課)

経過報告

1) 栃木県におけるがん情報の普及の取り組み

～拠点病院の立場から～

清水 秀昭(栃木県立がんセンター・病院長)

2) 広島県における地域の療養情報作成の取り組み

～がん臨床地域必携班研究分担者として～

篠崎 勝則(県立広島病院・臨床腫瘍科主任部長)

3) 地域で作る沖縄県版「地域の療養情報」

『おきなわがんサポートハンドブック第2版』

増田 昌人(琉球大学医学部附属病院・がんセンター長・診療教授)

休憩

第2部

15:20 ~ 16:30

ワークショップ

地域における情報発信とがん患者支援に向けて

(参加者全員で、グループディスカッションを行います)

テーマ1) 地域における情報づくりの課題と工夫

テーマ2) 地域における患者・住民と医療現場、行政との協働に向けて

総合討論

まとめ・閉会の挨拶

主催: 厚生労働科学研究費補助金(がん臨床研究事業)
地域におけるがん対策の推進と患者支援に資する介入モデル
の作成に関する研究班

共催: 公益財団法人 日本対がん協会

第2弾 患者必携「地域の療養情報」の
提供に向けて2012
地域における情報発信とがん患者支援

目次

主催：厚生労働科学研究費補助金（がん臨床研究事業）

地域におけるがん対策の推進と患者支援に資する介入モデルの作成に関する研究班

共催：公益財団法人 日本対がん協会



趣旨説明 「地域におけるがん情報発信とがん患者支援」

渡邊 清高（国立がん研究センターがん対策情報センター）

4

第1部 研修会

「患者必携『地域の療養情報』の提供に向けて 地域における情報発信とがん患者支援」

事例報告

1) 愛知県におけるがん情報の普及の取り組み

西條 正人（愛知県病院事業庁管理課主査）

9

篠田 正幸（愛知県がんセンター中央病院・病院長）

12

2) 京都府におけるがん情報の普及の取組 ～行政の立場から～

古川 浩気（京都府健康福祉部健康対策課）

16

経過報告

1) 栃木県におけるがん情報普及の取り組み

清水 秀昭（栃木県立がんセンター・病院長）

20

2) 広島県における地域の医療情報作成の取り組みとその後の展開

篠崎 勝則（県立広島病院 臨床腫瘍科）

25

3) 地域で作る沖縄県版「地域の療養情報」『おきなわがんサポートハンドブック第2版』

増田 昌人（琉球大学医学部附属病院がんセンター）

29

第2部 ワークショップ「地域における情報発信とがん患者支援に向けて」

○グループディスカッション

テーマ1) 地域における情報づくりの課題と工夫

テーマ2) 地域における患者・住民と医療現場、行政との協働に向けて

○グループ発表（各グループ発表、質疑）

患者必携「地域の療養情報」の提供に向けて 2012 アンケートまとめ

33

第2期 患者必携「地域の療養情報」の提供に向けて2012 地域における情報発信とがん患者支援

趣旨説明

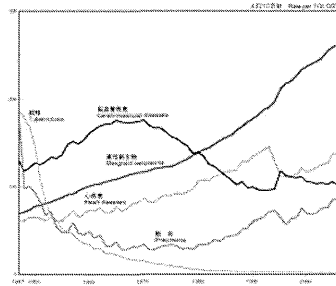
「地域におけるがん情報発信とがん患者支援」

厚生労働科学研究費補助金(がん臨床研究事業)
「地域におけるがん対策の推進と患者支援に資する介入モデルの作成に関する研究」

国立がん研究センターがん対策情報センター
渡邊 清高

2012年11月21日

がんの状況



- 年間35万人の死亡
- 年間70万人が発病
- 2人に1人はがんにかかる
- 家族・親族にがん患者がいない家族はないという状況



がんはすべての国民の問題

高齢化とともに増え続けるがん死亡
→ 国民の最大の脅威

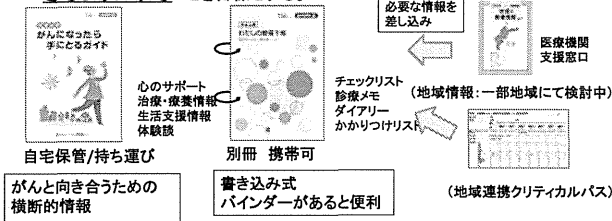
がん登録とがん情報発信について

患者必携とは

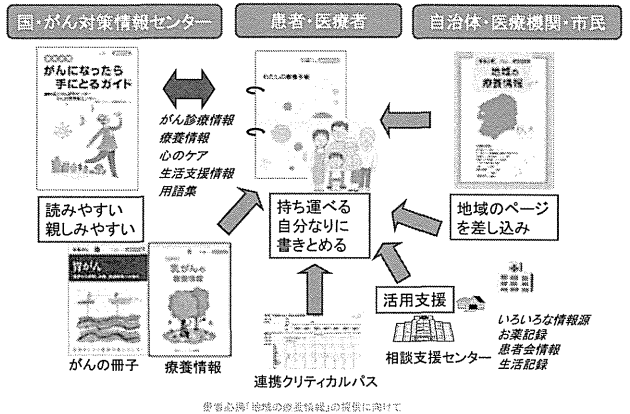
がん対策推進基本計画(2007年6月策定)より

インターネットの利用の有無に関わらず、得られる情報に差が生じないようにする必要があるので、がんに関する情報を掲載したパンフレットやがん患者が必要な情報を取りまとめた患者必携を作成し、拠点病院等がん診療を行っている医療機関に提供していく。

当該パンフレットや、がんの種類による特性等も踏まえた患者必携等に含まれる情報をすべてのがん患者及びその家族が入手できるようにすることを目標とする。

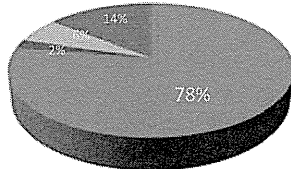


情報の「場」をつくる



地域の療養情報のニーズと期待

Q.現在4県について「地域の療養情報」冊子を作成しています。今後ほかの地域でも作成すべきと思いますか。



- 必要
- 必要ない
- その他

「どうしても自分の県はないのですか?」

国立がんセンターがん対策情報センター ウェブアンケート H21年12月
http://ganjoho.ncc.go.jp/public/qa_links/brochure/nikkei_index.html

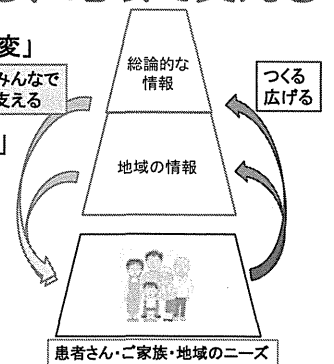
患者必携「地域の療養情報」の提供に向けて

みんなで作る、地域で支える

「ニーズは明らか、でも大変」だから...

「情報をつくる、支える」

- 緩和ケア
- 在宅医療
- 公的助成・支援
- 地域の医療機関
- 地域のリソース
- 独自の社会支援制度
- 患者会・ボランティア団体
- 歴史・風土・文化・教育・言語
- 気候・風俗・家族観・死生観



患者必携「地域の療養情報」の提供に向けて

厚生労働科学研究費補助金(がん臨床研究事業) 分野1 主に政策分野に関する研究

ウ. 地域におけるがん対策の推進と患者支援を目的とした研究
⑩ 地域におけるがん患者等社会的支援の効果的な実施に関する研究

地域のがん患者がどのような経緯でがん診療ネットワーク内を移行しているのか等**がん患者の動態**等を踏まえ、**地域**において行われるべきがん患者や家族等に対する**社会的支援**について、先駆的な介入法の事例を収集し、その**有用性に関して検証**するとともに、その成果について多くの自治体・医療機関等が参照できるような**実施モデルを作成**する研究課題であること。

※併発必携「地域の療養情報」の発行に向けて

平成22年度～

地域におけるがん対策の推進と患者支援に資する介入モデルの作成に関する研究

渡邊清高	国立がん研究センターがん対策情報センター 室長(研究代表者)
清水秀昭	栃木県立がんセンター 病院長
篠田雅幸	愛知県がんセンター中央病院 病院長
岡本直幸	神奈川県立がんセンター臨床研究所 がん予防情報研究部門
今井博久	国立保健医療科学院 疫学部 統括研究官
照井隆広	医療法人社団 爽秋会 岡部医院 院長
田城孝雄	順天堂大学 スポーツ健康科学部 教授
元雄良治	金沢医科大学 腫瘍内科学 教授
山口佳之	川崎医科大学 臨床腫瘍学 教授
川上公宏	香川県立中央病院 血液内科 部長
篠崎勝則	広島県立広島病院 臨床腫瘍科 主任部長
北村周子	三重県がん相談支援センター センター長
増田昌人	琉球大学医学部附属病院がんセンター長・臨床教授

※併発必携「地域の療養情報」の発行に向けて

研究の目的

特に国民の不足感が強く、必要性の高いがん医療に関して、治療のみならず**療養生活**を含めた患者家族の**自立的な意思決定支援**を含めた、**社会的支援の活用**を促す**取り組みを収集・検証**し、自治体や医療機関を含めた関係団体向けに**企画立案、実行計画策定、実施準備、評価と検証の各フェーズ**に応じて**参照活用**できるモデルを作成することにより、全国のがん患者・家族の療養生活の質を向上させること。



※併発必携「地域の療養情報」の発行に向けて

本研究にて明らかにすること

地域独自の取り組みとして行われている特色ある**社会支援**を含めた「**地域の療養情報**」を収集整備しながら、**評価・検証**を行い、**がん医療**や**社会支援**の情報提供と、**地域の特性**に応じた**社会的支援**のあり方に**必要な行動計画**として関係諸機関に対して**推奨**される**施策**を、**モデル地域**での**先行取り組み**の成果とともに**提言**を行う。

※併発必携「地域の療養情報」の発行に向けて

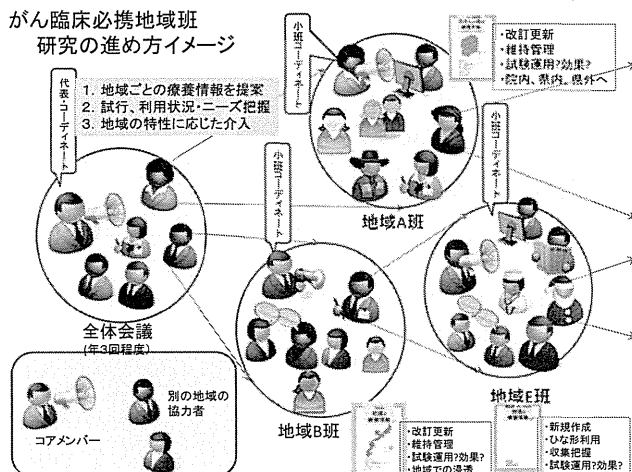
研究班進捗計画

	つくる			集める		広げる		伝える		使う		患者・家族・国民			
	テーマ出し	ヒアリング	コンセプト	初稿	定稿	完成	情報収集	確認	調整	印刷	配布		普及啓発	研修	利用
地域A															
地域B															
地域C															
地域D															
地域E															
地域F															
地域G															
地域H															

試作版 改訂、試行
評価の軸
評価の多様化
実践の広がり
パイロット増加

※併発必携「地域の療養情報」の発行に向けて

がん臨床必携地域班 研究の進め方イメージ

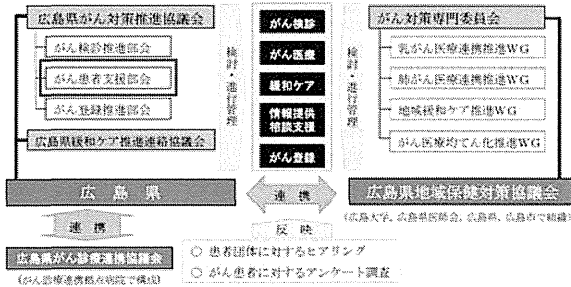


1. 対象と目的が明確

介入モデル全体の目的・対象が具体的に記載されている
 例) がん患者さんのための「地域の療養情報」サポートブック、
 広島県内での療養生活に役立つ身近な相談窓口などの情報を取りまとめたものです。



〔広島県がん対策推進計画〕アクションプランの検討・運行管理体制(平成21年10月現在)〕



4. わかりやすさ、患者の視点

5. 利用者による研修会・説明会の試行

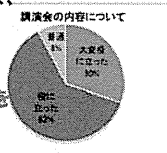
想定利用者で研修・説明会が開催されるなど、既に試行されている。
 能登、栃木、倉敷、愛知、東京、三重、愛媛、高知など

例) 栃木県との共催で市民公開講座実施と情報公開、
 健康福祉センター(保健所)による関係者向け研修会とアンケート調査



本来の目的は、配布ではなく、

患者さんの知りたいことを
 明らかにして、
 地域で支える患者支援の輪を
 構築し、広げる!



がん患者との会い言葉
 “患者必携”

2. あらゆる関係者の参画と独立性の担保 例)「おきなわがんサポートハンドブック」

22年1月試作→23年3月→24年2月
 県、県がん診療連携協議会、琉大がんセンターより発行



平成21年8月

作成に向けた検討開始

11月

部会で、内容の訂正・見直し

平成22年1月

試作版完成

平成23年3月

沖縄県版として第1版完成(2万部)

関係施設、患者家族に配布

12月

改訂作業開始

平成24年2月

第2版完成

6月 各施設配布開始

* 沖縄県版の追加項目 *

- 県がん診療連携支援病院
- 高額医療費制度、負担金減免制度
- 障害年金、手当
- 高額介護、高額医療制度
- 訪問看護ステーション一覧
- 民間救急サービス、介護タクシー
- 患者会、家族向けアドバイス など
- 治療・療養過程(ライフコース)マップ
- 患者用チェックリスト、基礎知識
- セカンドオピニオン一覧
- 医療計画における専門医療機関一覧

自治体による「地域の療養情報」の作成



『地域の療養情報』比較

栃木 (26) 愛媛 (24) 茨城 (22) 沖縄1版 (82) 広島 (50) 大阪 (51) ページ

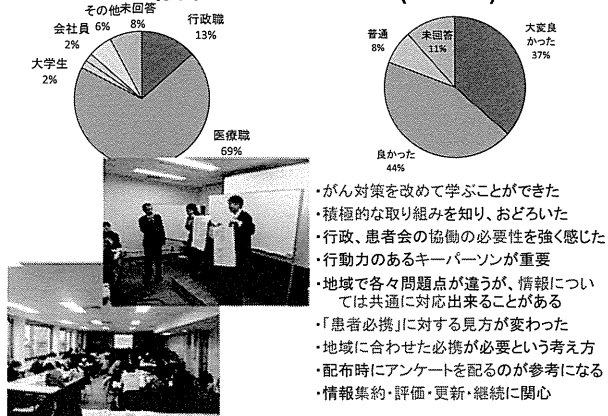
自治体	特徴
栃木 (26)	県立病院/相談支援センター 制度(助成/貸付/手当) 相談(在宅/介護/障害) 公共施設
愛媛 (24)	制度(助成/貸付/手当) 公共施設
茨城 (22)	県立病院/相談支援センター 各拠点病院の情報(相談支援センター/セカンドオピニオン) 相談(在宅/介護/障害) 制度(助成/貸付/手当)
沖縄1版 (82)	患者会 相談(在宅/介護/障害) 制度(助成/貸付/手当)
広島 (50)	県立病院/相談支援センター 患者会 制度(助成/貸付/手当) 相談(在宅/介護/障害) 公共施設
大阪 (51)	県立病院/相談支援センター 患者会 相談(在宅/介護/障害) 制度(助成/貸付/手当) 緩和ケア セカンドオピニオン 相談(在宅/介護/障害) 公共施設

目的	計画	アウトカム	目標
インフラ確保	インフラのニーズを把握する	連携機関のリーダーシップから支援を得る	連携機関のリーダーシップから支援を得る
資源の動員(資金・人材・設備等)	要請の資源レベルを把握する	計画に必要な資金・人材を確保する	公的・私的セクターの資源を確保する
チーム/協成案の活用	がん患者と他のデータ連携(情報)を構築する	活用できるチーム/協成案を特定する	チーム/研究結果を目的・戦略高度としてレビュー
協力関係の構築	可能性のあるパートナーを特定・調整・招待する	初期のミーティングを準備する	日課、週末、意思決定プロセスについて合意する
がんによる負担を軽減	関連分野での協力関係を構築する	必要な時間やスキルを明確にする	計画可能な範囲の目標を設定する
評価の実施	経過する期間やスキルを明確にする	計画プロセスを定式化する	計画プロセスに評価を統合して評価方法を明確にする

患者必携「地域の療養情報」の提供に向けて 地域における情報発信とがん患者支援の提案

- がん患者さんの療養生活の質の向上をめざして、治療だけでなく療養生活を含めた、地域における社会的支援の活用を促す取り組みを収集し、普及する動きが広がっています。
- がん患者さんの支援の輪を「みんなでつくる、地域で支える」ために、どのような取り組みが求められるでしょうか。
- 地域における情報づくりと普及に向けた活動をとおして、望ましい協働のあり方について議論を行います。

前回アンケート(n=52)



なぜ、地域情報？目的は？

- ◆患者にとって 第一義的に「不安の軽減」
 - 情報不足の解消
 - ニーズ把握・活用度の評価・個別化
- ◆医療者・医療機関にとって
 - 情報提供・相談支援のノウハウの蓄積、技術の向上、連携の構築
- ◆国・都道府県にとって
 - 地域向けがん情報提供の向上、関係構築
 - がん対策の均てん化

患者必携「地域の療養情報」の提供に向けて

なぜその地域で評価？(報告書より)

1. 地域における情報介入モデルの実践的な普及デザインと配布のあり方を具体化すること。
2. 有効性および地域住民、専門家、組織のすべてに及ぼされる影響に関するエビデンスを提供すること。
3. がん患者を対象に、平成24年度までにパイロット実施地域以外においても、当研修会で得た知見をもとに、全国レベルで地域における情報介入モデルが円滑に実施されるように積極的に取り組むこと。
4. 政策の方向性を伝達し、情報処方箋の実施が他の主要な政策決定構造に確実に組み込まれるようにすること。

患者必携「地域の療養情報」の提供に向けて

評価のゴール

- ◆患者にとって 「不安の解消」「情報の充足感」
 - 結びつくのは、内容か・媒体か・それ以外か？
 - 知ること、よりよい情報提供・支援につながる
- ◆医療者・医療機関にとって
 - ナラティブな医療者のニーズ把握、患者視点の「補完」ノウハウの蓄積、技術向上、連携
- ◆国・都道府県にとって
 - 地域発のがん情報提供のエビデンス構築
 - がん対策の均てん化
- ◆研究協力者にとって
 - 地域/患者視点の情報づくりからがん対策への道筋を提言

患者必携「地域の療養情報」の提供に向けて



患者必携「地域の療養情報」の提供に向けて2012
地域における情報発信とがん患者支援

ご清聴ありがとうございました

患者必携「地域の療養情報」の提供に向けて

がん患者さんのためのサポートブック ～地域の療養情報を作成する行政の立場から～



病院事業庁管理課 西條正人

きっかけについて

- **がん対策推進基本計画**(平成19年6月策定)(政府)
(個別目標)(3)「がん医療に関する相談支援及び情報提供」(3年以内)
がんに関する情報は、がん患者の立場に立って、様々な手段を通じて提供される必要がある。
 - **愛知県がん対策推進計画**(平成20年3月策定)(愛知県)
(個別目標)(5)「がん医療に関する相談支援及び情報提供の拡充」(5年以内)
相談支援センターやがん患者会などのがんの相談窓口を総合的に紹介するリーフレットは現在のところ見られない。
- ・**県**の役割
がん医療に関する正しい知識の普及や情報の収集と分析を行い、必要な情報を県民が入手できるように広報に努めなければならない。
 - ・**医療機関**の役割
がん患者とその家族が必要としているがん医療に関する情報の提供に努めなければならない。

どこが主体となって作成していくか

- **愛知県健康対策課**(愛知県がん対策推進計画の策定課)
愛知県の医療行政も、現実的にはがん対策だけでないため、印刷製本費一つとっても対応が難しいとの回答。
- **がん患者団体**
規模、目的等求めている内容が多様多様であり、現実的には意見調整が難しい。
- **愛知県がん診療連携協議会**(国指定15、県指定8のがん拠点病院で構成)



がん拠点病院の国費等で対応すべきとの考えもあり、愛知県がん診療連携協議会で対応していくこととなった。

愛知県のがん診療連携拠点病院一覧 H24.4.1現在

(国指定 15)	
愛知県がんセンター中央病院	名古屋医療センター
名古屋大学医学部附属病院	社会保険中京病院
海南病院	公立陶生病院
一宮市立市民病院	小牧市民病院
豊田厚生病院	安城更生病院
豊橋市民病院	名古屋市立大学病院
名古屋第一赤十字病院	名古屋第二赤十字病院
藤田保健衛生大学病院	
(県指定 8)	
名古屋徳済会病院	名古屋記念病院
愛知医科大学病院	半田市立半田病院
刈谷豊田総合病院	中部労災病院
春日井市民病院	トヨタ記念病院

愛知県がん診療連携協議会の取り組み

愛知県がん診療連携協議会(県がんセンター中央病院)

【部会名】	【担当拠点病院名】
研修教育部会	名古屋大学医学部附属病院、刈谷豊田総合病院、名古屋第二赤十字病院
相談支援部会	小牧市民病院、安城更生病院、春日井市民病院、名古屋第一赤十字病院、中部労災病院
院内がん登録部会	豊田厚生病院、公立陶生病院、名古屋市記念病院、愛知医科大学病院
地域連携クリニカルパス部会	社会保険中京病院、海南病院、一宮市立市民病院、豊橋市民病院、半田市立半田病院、トヨタ記念病院
緩和ケア部会	藤田保健衛生大学病院、名古屋医療センター、名古屋立大学病院、名古屋徳済会病院
看護部会	全23病院

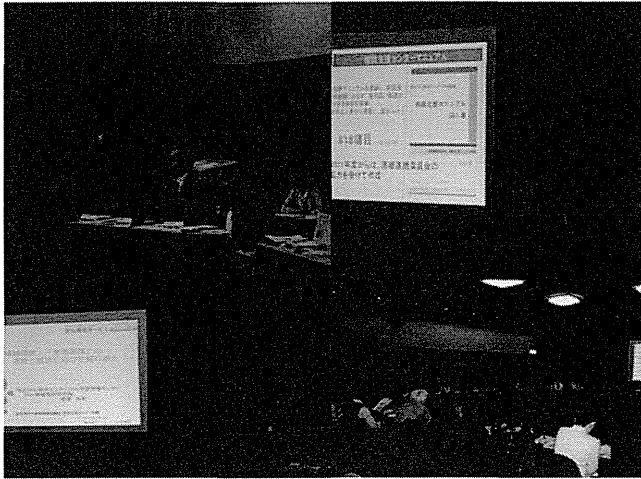
作成に向けた検討

○愛知県がん診療連携協議会相談支援部会を中心に協議

○がん拠点病院の相談支援センター会議を巻き込む(現場からの視点を入れるため)

- ①掲載内容の検討
- ②掲載内容の決定

開催日	開催内容	出席者
2011/1/20	協議会相談支援部会	渡邊先生(県がん)、拠点病院相談支援センター職員、患者団体
2011/10/14	協議会相談支援部会	相談支援部会関係者
2011/11/11	患者必携「地域の療養情報」の提供に向けて「がん臨床研究推進事業研修会」	行政担当者、研究者、医療従事者、情報提供・相談支援関係者、一般の方
2012/2/6～7	新設の名古屋市陽子緑治療施設見学会	がん拠点病院参加希望者
2012/2/7	協議会相談支援部会、相談支援センター会議合同開催	渡邊先生、領口先生(県がん)、拠点病院相談支援センター職員



検討会議等に出てきた意見

3つのポイント

- 掲載内容について
- 予算について
- 広報について

掲載内容について

○「が」とんという病に関して、正確な情報を調べる手立てがない。

○地域連携パスの掲載(連携機関一覧も)

○(名古屋市)陽子線治療施設の説明

○在宅支援診療所情報の掲載

○がん拠点病院の特徴・治療法などを掲載

がん拠点病院載の特徴、治療法などを掲載

○がん診療連携拠点病院からのメッセージ(厚生労働大臣指定)

連携先	病院名	メッセージ
	愛知県がんセンター中央病院	当院は、がん専門病院として、最先端で最良のがん医療を最速で提供することを使命としています。標準的治療を普及させるオビネクターでがんを治療しながら、治療や臨床試験などを通して最新の医療の発信源ともなっております。また、明日のがん医療を描く医療従事者の育成・研修にも力を入れています。
	独立行政法人国立病院機構名古屋医療センター	当院は、がん患者さんの治療方針の決定を、内科、腫瘍内科、放射線治療科、複数の領域の専門医による「カンセクター」方式によって十分に検討し、最善の治療を行うよう努めております。
	名古屋大学医学部	名古屋大学は、教育や研究を行う大学附属病院であるとともに、患者さんに質の高い医療や有益な情報を提供する地域のがん診療の拠点としての役割も担っています。がん領域だけではなく、

予算について

○愛知県への予算要求

愛知県健康福祉部への予算要求
愛知県がん診療連携協議会としての予算要求(愛知県病院事業庁)

○研究班への依頼

愛知県への予算編成を試みたが結局初版では、急な予算の対応が難しく、渡邊先生の研究班に頼ることとなった。

初版1,000刷 51ページ 企画・制作内容及び仕様 約80万円
印刷代金 約16万円
計 約96万円

ようやくこの11月、愛知県の予算で増刷版に対応。
増刷版5,000刷 36ページ 約27万円

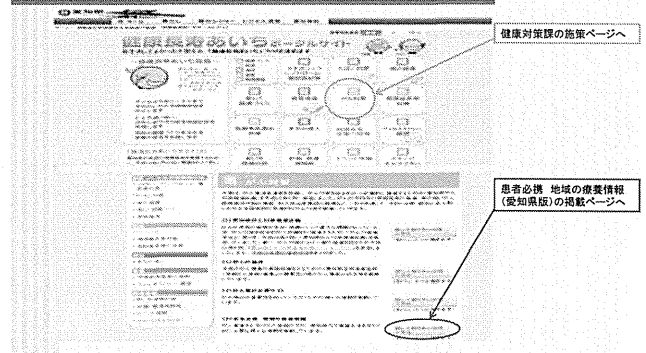
初版 配布先一覧

配布先	配布部数
国指定がん拠点病院	35冊×14施設 490冊
県指定がん拠点病院	35冊×8施設 280冊
愛知県健康福祉部	10冊
愛知県がんセンター中央病院	40冊
がん患者団体	3冊×10施設 30冊
研究班	100冊
予備	50冊
合計	1000冊

広報について

- ・一般県民へ「地域の療養情報」という冊子を送り届けるアクセス方法が大事
- ・地域(自治体)から各家庭あるいは地域の診療所などの医療機関に置かれてこそ効果がある。
- ・県から県の広報誌に掲載したり、や地域の広報誌などに掲載していただけるように依頼してはどうか。
- ・国や県へ多くの方が目にする場所へ冊子配布を行う働きかけをする。
- ・現在、年齢に応じて県からがん検診の無料クーポンなど配布しているが、余白に患者必携のことなど掲載できないか。

県の広報誌や地域の広報誌などの掲載状況の一例



県のがん検診配布無料クーポンに、がん拠点病院の特徴・治療法等を掲載した一例 相談支援センターの紹介

がん拠点病院	特徴	治療法	相談支援センター
愛知県がんセンター中央病院	がん診療連携拠点病院	がん診療連携拠点病院	がん相談支援センター
愛知県がんセンター東中央病院	がん診療連携拠点病院	がん診療連携拠点病院	がん相談支援センター
愛知県がんセンター南病院	がん診療連携拠点病院	がん診療連携拠点病院	がん相談支援センター
愛知県がんセンター北病院	がん診療連携拠点病院	がん診療連携拠点病院	がん相談支援センター

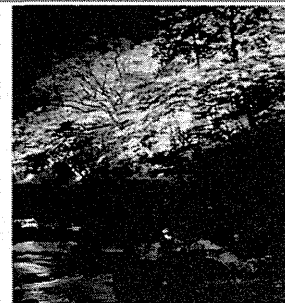
初版配布後のアンケート結果

- 患者・家族に役立つと答えた人 92%
- 内容(詳しすぎる・簡単すぎる)は、ちょうどよいと答えた人 80%
- 医療・介護関係者に役立つと答えた人 80%
- 取り入れて欲しい情報:がんサロン、緩和ケア病棟の問い合わせ先、緩和ケア外来、訪問看護ステーション、がん拠点病院を受診するメリット・デメリット

今後の課題

- 実際に患者さんへの配布を考えた増刷の必要性
- 最新情報とするため、定期的な記載内容の更新
- 関係者、患者さん等への情報収集の継続。
- 改訂版発行のための予算

ご静聴ありがとうございました。



みんなで作ろう、地域で支えよう、
がん患者さん支援の輪
～患者目線で考える地域の療養情報～

「愛知県の取り組み」

愛知県がんセンター中央病院
病院長 篠田雅幸

2012年11月21日

がん医療に関する相談支援及び
情報提供の拡充

- 基本方針
インターネットの利用の有無に関わらず、得られる情報に差が生じないようにする必要があることから、がんに関する情報を記載したパンフレットやがん患者が必要な情報をまとめた冊子を拠点病院などのがん診療を行っている医療機関で提供していきます

「愛知県がん対策推進計画」より一部抜粋

がん医療に関する相談支援及び
情報提供の拡充

- 目標
がんに関するパンフレットの種類を増加させ、全てのがん患者とその家族が入手できるようにする
- 主な施策
国などが作成するがんに関するパンフレットを拠点病院などと連携し、患者とその家族が入手できるように努める

「愛知県がん対策推進計画」より一部抜粋

地域の療養情報作成スケジュール

- ◆ 平成23年1月20日(木):
地域の療養情報(愛知班)検討会
- ◆ 平成23年10月14日(金):
第1回相談支援部会
- ◆ 平成23年11月11日(金):
患者必携「地域の療養情報」の提供に向けて
～地域における情報発信とがん患者支援～
- ◆ 平成24年2月7日(火):
第1回相談支援センター会議
- ◆ 2月中に愛知県健康対策課から、
主要な県内がんに関係したNPO法人へ意見聴取
- ◆ 2月下旬～3月初旬
相談支援部会開催 地域の療養情報の内容決定
- ◆ 3月初旬 渡邊先生へ原稿提出

がん患者らの体験集め、発言「患者必携」愛知など地域版

中日新聞 朝刊(2011年3月8日)



がんの地域情報について話し合う患者や家族たち＝名古屋市中種区の愛知県がんセンターで

医療が専門分化して複雑になる中、「患者や家族の視点で医療に盛り込もう」という動きも盛んになってきた。患者の役に立つ医療情報の発信、患者の思いをくみ取る医療者の育成を目指す2つの取り組みを紹介する。

(編集委員 安藤明夫)

名古屋市中種区の愛知県がんセンターで1月、45人のがん患者や家族らが集まり、分かれて対話した。テーマは「患者必携・愛知版」にどんな情報を盛り込むか。「患者必携」とは、東京の国立がん研究センター内にあるがん対策情報センターが、がんの最新知識や患者へのアドバイス、療養生活のヒントなどをまとめた冊子で、同センターのホームページで公開されている。

この全国共通情報と併せて、身近な地域情報を提供していくのが「愛知版」の目的。盛り込む情報としては、県のがん対策推進計画の解説や、がん診療連携拠点病院など医療機関のガイド、相談窓口などが考えられるが、それだけでは患者が手に取ってくれるかららない。

相談先、飲食店情報も

会場からは「専門病院の紹介の中に、疾患別の治療成績や心のケアの対応を載ってほしい」「患者が利用しやすいレストランガイドを」「若い乳がん患者は子どもの問題で困るので、相談先のリストを」など、経験に基づいた提案が相次いだ。

この会を企画した愛知県がんセンター中央病院長の篠田雅幸院長は「適切な医療にたどり着けない」「がん闘病」を減らすには、使いやすい情報を提供することが不可欠。そのために患者さんの視点を取り入れていきたいと話すが、今後、情報発信の手段、PR方法などを検討していく。

全国版はネットで公開

全国版の「患者必携」にも患者・市民60人の視点が入っている。当初の文章にあった「残された時間」という表現は「限られた時間」に改められた。入院時の持ち物リストには「乳液は無香料のもの」「バジマは前開きがいい」など体験に基づいたアドバイスが盛り込まれた。

リーダーを務めた渡辺清高医師(がん対策情報センターがん医療情報サービス室長)は「患者さんの手記やQ&Aも好評です。がん以外の病気にも、こうした情報発信が必要だと思う」と話す。

全国版の患者必携は、今月「患者必携 がんになったら手にとるガイド」(学研メディカル秀理工社、1200円)として出版された。静岡県など4県の地域版「患者必携」試作版も、がん対策情報センターのホームページで公開している。

がんの地域情報について話し合う患者や家族たち



名古屋市中種区の愛知県がんセンターで(2010/1/20)

愛知県がん診療連携拠点病院 相談支援センター会議について

日時:平成24年2月7日(火) 13時30分～16時30分

場所:国際交流センター大会議室

内容:

- ①講演「がん情報の活用について(仮題)」
国立がん研究センターがん対策情報センター
渡邊清高先生
- ②講演「国立がん研究センター相談支援センターの
運用について(仮題)」
国立がん研究センター 相談支援室
樋口由起子先生
- ③各拠点病院における相談支援センターの活動について

愛知県版「地域の療養情報」に対する アンケート

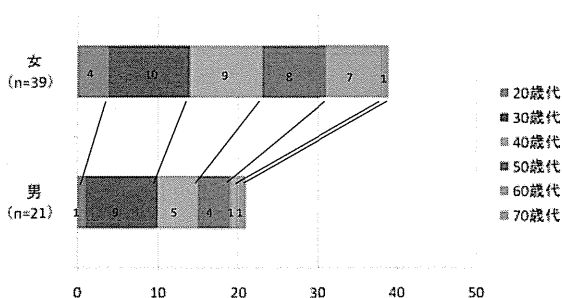
◆配布した病院及び団体

- がん診療連携拠点病院(厚生労働大臣指定) 15病院
- がん診療拠点病院(愛知県知事指定) 8病院
- がん患者会(地域の療養情報愛知県版掲載) 10団体

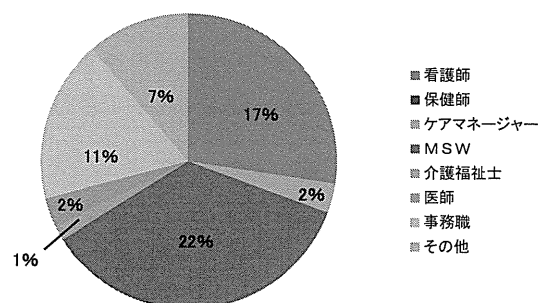
◆期間

平成24年6月26日 ～ 7月27日

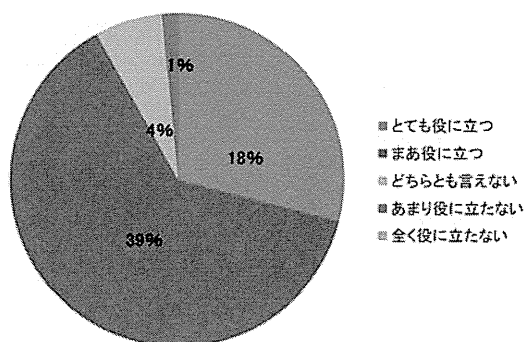
アンケート記入者の性別・年齢



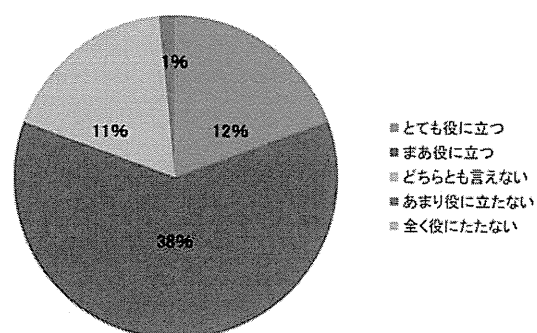
アンケート記入者の属性(職種)



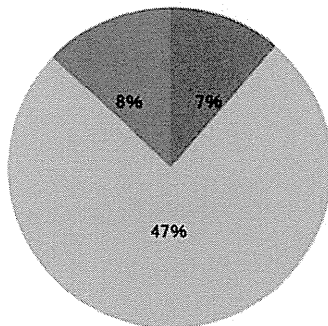
愛知県版「地域の療養情報」は 患者・家族に役立つか



愛知県版「地域療養情報」は 医療・介護関係者に役立つか



愛知県版「地域の療養情報」の内容（難易度）について



- とても難しすぎる
- やや難しすぎる
- ちょうどよい
- やや簡単すぎる
- とても簡単すぎる

掲載して欲しい情報

- ◆ 関係者について
こころのケアについての関係者の紹介
- ◆ ところがまえなど
導入にがんの全般的解説の記載があれば親しみが持てる
- ◆ その他
どのような相談をしてよいか問い合わせがあるので、相談内容の例を紹介するとよい

記載方法・表現に関すること

- ◆ 漫画を入れて案内、説明するとより身近でわかりやすくなる
- ◆ 活字ばかりだと手に取りにくいので写真などを入れるとよい
- ◆ クリニカルパスやジェネラリストナースなどの専門用語が患者にはわかりにくい。
- ◆ 患者へのいたわりの心遣いのある表現を増やしてほしい

その他

- ◆ 今回の療養情報は簡潔にまとめられており、拠点病院から患者会まで大変行き届いた情報になっている。この情報が早い段階で医療機関から患者の手元に配布されることを望む

地域での普及の可能性、課題、活用を促す取り組み（1）

- ◆ 情報を得ようとしてもインターネットでは適さない方もたくさんいる
- ◆ 医療用品を取り扱っている介護用品業者や薬局などの店頭においてもらう
(役所などは用事がないといかない)
- ◆ がんと診断された方すべてに配布する

地域での普及の可能性、課題、活用を促す取り組み（2）

- ◆ 患者、家族が求める情報の内容を厳選し、問い合わせ先を明記するなど中途半端でない冊子にしないと普及の可能性は高められないと思われる
- ◆ 医療者(がん相談員)用に、より網羅的な情報を含んだ冊子があるとよい

地域での普及の可能性、課題、 活用を促す取り組み（3）

- ◆項目ごとに分けて提供できるような冊子の装丁であれば、個々の要求に対応でき
不要な情報まで与えずにすむ
- ◆改訂のための予算はあるか



がん臨床研究推進事業 研修会
患者必携「地域の療養情報」の提供に向けて
地域における情報発信とがん患者支援

平成24年11月21日(木)
(国立がん研究センター 国際交流会館)

京都府におけるがん情報の
普及の取組
～行政の立場から～

京都府健康対策課がん対策担当
古川 浩気

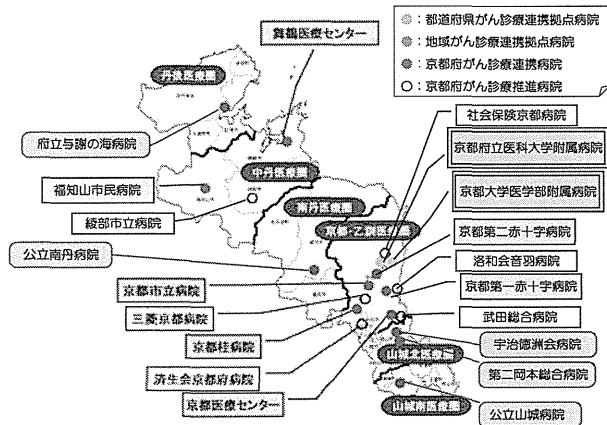
建設は 京都府の概要



- 人口:約260万人
(うち京都市 約147万人)
- 市町村数:26
- 二次医療圏数:6
- がん死亡者数:7,421人
(平成23年人口動態統計)
- がん罹患患者数:14,145人
(2007年全国がん罹患モニタリング集計)
- がん診療連携拠点病院数
9施設(うち都道府県拠点2施設)
- 京都府独自指定病院数
12施設



二次医療圏と指定病院の関係



地域の療養情報(京都府版)作成のきっかけ

平成21年度、平成22年度
都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会 連絡事項
◎各都道府県で地域の療養情報について作成を検討願いたい。

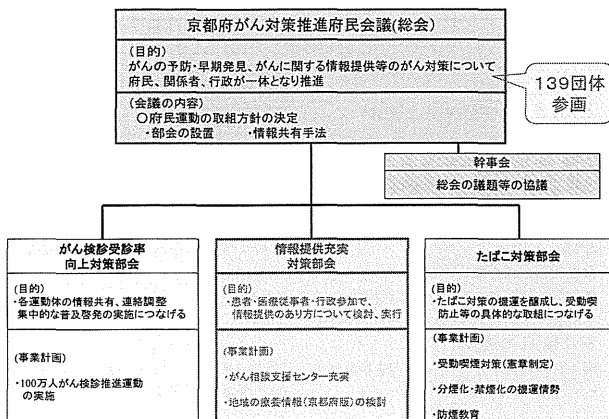
患者さんの声

- ◎ホームページだけでなく、高齢者も活用できる、紙ベースの情報提供をして欲しい。
- ◎様々な情報を網羅的に提供してくれる「京都府中央情報センター」が欲しい。
- ◎どの医療機関を受診すればよいか情報提供して欲しい。



平成23年3月 京都府がん対策推進条例 制定
→「京都府がん対策推進府民会議」の設置が義務づけられる
→同会議「情報提供充実部会」の当面の取組として、「地域の療養情報(京都府版)」の作成を提案。了承される。

京都府がん対策推進府民会議の組織について



府民会議 主な参画団体(139団体)

- 市町村(26)
- 保健医療関係者(43)
医師会、歯科医師会、看護協会、薬剤師会、栄養士会
私立病院協会、府病院協会、がん拠点病院、京都府指定のがん拠点病院に準ずる病院
検診事業者、産業保健推進センター
国保連合会、協会健保京都支部、健保組合連合会京都連合会、国保組合(4)
府内企業又は健保組合(ワコール、日本新薬、島津製作所、オムロン、堀場製作所等) 等
事業者・労働組合関係等(28)
商工会議所連合会、中小企業団体中央会、府観光連盟、電鉄会社
生活衛生営業指導センター、生活衛生同業組合
府内金融機関(4)、保険会社(6)、健康関連会社(オムロンヘルスケア、製薬会社)
労働関係(労働者福祉協議会、連合京都) 等
がん対策に関する啓発に取り組む団体(4)
禁煙推進研究会、ピンクリボン京都、プレイブサークル、リレー・フォー・ライフ京都
がん患者団体・支援団体等(12)
教育関係団体(13)
小学校・中学校・高校校長会、私立中学高校連合会、PTA協議会、府内大学(8)
報道機関(7)
京都新聞、各新聞社京都総局(5)、NHK京都放送局
その他関係者(6)
連合婦人会(府、市)、青年会議所、食生活改善推進員連絡協議会、体育指導委員協議会 等

メイリングリストで情報共有



参加者約300人

平成23年10月25日(火)
@ホテルグランヴィア京都



市田ひろみ氏 kickoff宣言
「みんなで、できることから」



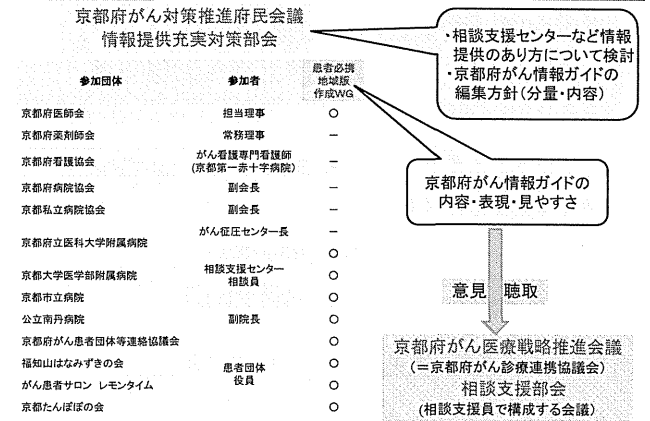
鳥越俊太郎氏 基調講演

「がんには痛みなど自覚症状がないから、自分で積極的にがん検診を受けることが大事。」
「行政主導ではダメ。地域が主役にならないと府民は動かない。」

Copyright (C) Kyoto Prefecture. All Rights Reserved.

7

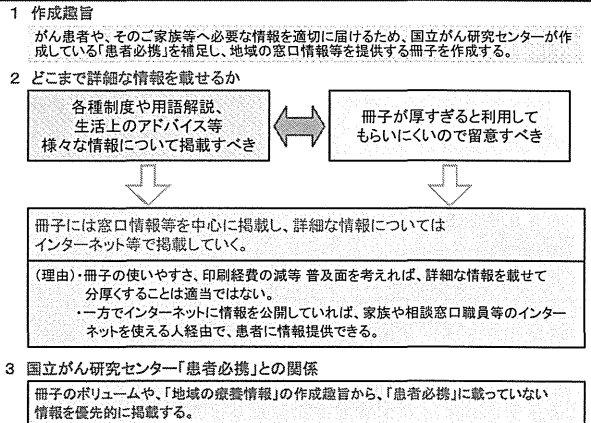
作成に向けた検討組織



検討経過

H23.10.25	京都府がん対策推進府民会議 設置 ・情報提供充実部会の設置について承認
H23.12.19	情報提供充実部会(第1回) ・情報提供・相談のあり方について ・地域の療養情報(京都府版)の作成について確認
H24.1.23	情報提供充実部会(第2回) ・地域の療養情報(京都府版)たたき台の提示
H24.3.5	地域の療養情報(京都府版)作成WG ・地域の療養情報(京都府版)修正案の詳細内容確認
H24.4~8月	・WG委員意見 ・京都府がん医療戦略推進会議相談支援部会 の意見を踏まえ修正
H24.9~11月	関係団体あて内容確認依頼
H24.11.29	情報提供充実部会(第3回) ・地域の療養情報(京都府版)の内容確認 ・普及方法について
24年度中	地域の療養情報(京都府版) 印刷士配布、ホームページアップ

作成の考え方



作成の考え方

載せた方がよいと意見があったが、割愛した情報

情報	割愛した理由
各患者サロンの特徴	
拠点病院以外のがん治療	冊子のボリュームの制約があるため、これらの詳細な情報については含めず、インターネット等での発信を検討
特殊な放射線治療	
用語解説	国立がん研究センターの「患者必携」で一定解説されており、どうしても解説が必要な用語に絞る
生活上役立つこと、注意点、アドバイス	国立がん研究センターの「患者必携」に一定記載されており、記載のないことで書くべきことがあれば対応
「患者必携」も入手しやすくなることが必要	・がん拠点病院、京都府指定病院全ての売店で「患者必携」を発売するよう徹底 ・患者必携の貸出について今後検討

その他の意見と対応

見たい項目にすぐたどり着けるようにチャート式にしてはどうか。	目次の次に「ガイドマップ」を設け、テーマごとに必要な情報によりたどり着きやすくした。
イラストを用いて見やすくして欲しい	印刷時に対応する。
沖縄県等を参考にもっと柔らかい表現で書くべき。	沖縄県等を参考により患者さんを意識した表現に変更した。
無料で車椅子を貸してくれるところの連絡先を載せてはどうか	市町村社協、区社協を紹介した。
全国がん患者団体の京都支部を載せてはどうか	ある程度知っている団体(あけぼの会、日本オストミー協会)の京都府支部等を追加した。
女性相談窓口も載せてはどうか	追加した。
保育サービスについて載せてはどうか	追加した。
大阪府のように信頼性のあるネット情報源をもっと紹介して欲しい	追加した。
様々な情報冊子があり、まず何を見れば良いかわかりやすい周知が必要。	「患者必携 がんになったら手に取るガイド」と「京都府がん情報ガイド」をセットで広報したパンフレットを作成する。

掲載内容(「京都府がん情報ガイド」目次)

目次	
【がん】に関する基本的知識	
【がん】に関する基本的知識(1)	4
【がん】に関する基本的知識(2)	10
【がん】に関する基本的知識(3)	16
【がん】に関する基本的知識(4)	22
【がん】に関する基本的知識(5)	28
【がん】に関する基本的知識(6)	34
【がん】に関する基本的知識(7)	40
【がん】に関する基本的知識(8)	46
【がん】に関する基本的知識(9)	52
【がん】に関する基本的知識(10)	58
【がん】に関する基本的知識(11)	64
【がん】に関する基本的知識(12)	70
【がん】に関する基本的知識(13)	76
【がん】に関する基本的知識(14)	82
【がん】に関する基本的知識(15)	88
【がん】に関する基本的知識(16)	94
【がん】に関する基本的知識(17)	100
【がん】に関する基本的知識(18)	106
【がん】に関する基本的知識(19)	112
【がん】に関する基本的知識(20)	118
【がん】に関する基本的知識(21)	124
【がん】に関する基本的知識(22)	130
【がん】に関する基本的知識(23)	136
【がん】に関する基本的知識(24)	142
【がん】に関する基本的知識(25)	148
【がん】に関する基本的知識(26)	154
【がん】に関する基本的知識(27)	160
【がん】に関する基本的知識(28)	166
【がん】に関する基本的知識(29)	172
【がん】に関する基本的知識(30)	178
【がん】に関する基本的知識(31)	184
【がん】に関する基本的知識(32)	190
【がん】に関する基本的知識(33)	196
【がん】に関する基本的知識(34)	202
【がん】に関する基本的知識(35)	208
【がん】に関する基本的知識(36)	214
【がん】に関する基本的知識(37)	220
【がん】に関する基本的知識(38)	226
【がん】に関する基本的知識(39)	232
【がん】に関する基本的知識(40)	238
【がん】に関する基本的知識(41)	244
【がん】に関する基本的知識(42)	250
【がん】に関する基本的知識(43)	256
【がん】に関する基本的知識(44)	262
【がん】に関する基本的知識(45)	268
【がん】に関する基本的知識(46)	274
【がん】に関する基本的知識(47)	280
【がん】に関する基本的知識(48)	286
【がん】に関する基本的知識(49)	292
【がん】に関する基本的知識(50)	298
【がん】に関する基本的知識(51)	304
【がん】に関する基本的知識(52)	310
【がん】に関する基本的知識(53)	316
【がん】に関する基本的知識(54)	322
【がん】に関する基本的知識(55)	328
【がん】に関する基本的知識(56)	334
【がん】に関する基本的知識(57)	340
【がん】に関する基本的知識(58)	346
【がん】に関する基本的知識(59)	352
【がん】に関する基本的知識(60)	358
【がん】に関する基本的知識(61)	364
【がん】に関する基本的知識(62)	370
【がん】に関する基本的知識(63)	376
【がん】に関する基本的知識(64)	382
【がん】に関する基本的知識(65)	388
【がん】に関する基本的知識(66)	394
【がん】に関する基本的知識(67)	400
【がん】に関する基本的知識(68)	406
【がん】に関する基本的知識(69)	412
【がん】に関する基本的知識(70)	418

主な掲載内容 (制度の説明・問い合わせ先の紹介)

- 〇京都府のがん対策
- 〇相談支援センター
- 〇拠点病院、京都府指定病院
- 〇セカンドオピニオン
- 〇緩和ケアの説明、病床設置病院
- 〇在宅療養サービス、介護サービス
- 〇医療費助成制度
- 〇就労継続、支援等に関する
- 〇障害、保育等福祉制度
- 〇患者サロン、患者会
- 〇インターネットの情報源
- 〇がん検診
- 〇利用者アンケート

掲載内容

ガイドマップ

この冊子の中で必要な情報がどこにあるかをご案内しています。
ページの構成について、この冊子の目次を掲載してあります。
また、「京都府がん情報ガイド」の目次を掲載してあります。
目次を掲載することで、必要な情報がどこにあるかをご案内しています。

がんに関する用語

用語集

がんに関する用語について、用語集に掲載しています。
用語集に掲載している用語は、がんに関する用語です。
用語集に掲載している用語は、がんに関する用語です。
用語集に掲載している用語は、がんに関する用語です。

がんとは、細胞が異常増殖して、体の中に肿块を形成し、周囲の正常な細胞を侵襲して増殖することです。がんは、がん細胞が体の中を移動して、他の臓器に移行し、増殖することによって発生します。

がんの種類は、がん細胞の発生部位によって分類されます。がんの種類は、がん細胞の発生部位によって分類されます。

がんの種類は、がん細胞の発生部位によって分類されます。がんの種類は、がん細胞の発生部位によって分類されます。

掲載内容

医療費・療養生活

がん治療には、高額な医療費がかかります。がん治療には、高額な医療費がかかります。

医療費・療養生活

がん治療には、高額な医療費がかかります。がん治療には、高額な医療費がかかります。

掲載内容

医療費・療養生活

がん治療には、高額な医療費がかかります。がん治療には、高額な医療費がかかります。

がんに関する用語

がんに関する用語について、用語集に掲載しています。がんに関する用語について、用語集に掲載しています。

活用方法

印刷部数等

・15,000部程度予定

普及方法(送付先:予定)

- ・拠点・連携・推進病院、その他がん関連病院(合計 約120施設)
- ・市町村、地域包括支援センター
- ・医師会(地区医師会・診療所)、薬剤師会(薬局)、歯科医師会、看護協会
- ・患者会
- ・ファミリーサポートセンター、年金事務所等各掲載窓口
- ・京都府がん対策推進府民会議関係団体
- ※患者さん本人より患者さんに案内できる人達に配布の方が良い?

評価・見直し体制(予定)

- ・冊子にアンケートを添付する。
- ・1年に1回程度、京都府がん対策推進府民会議情報提供充実部会で見直し点を議論する。
- ・京都府がん医療戦略推進会議 相談支援部会でも評価

今後の課題

継続した印刷予算の確保

どのように患者さんに冊子を届けるか

- ・印刷部数が限られている(年間罹患患者程度)
→効率的に全ての患者さんに必要な情報を届けるには
・府民会議ネットワークを活用・強化

冊子に載っていない(載せきれなかった)情報の提供

- ・「京都府がん情報ガイド」の内容充実
特に、患者さんの要望が強い、医療情報の取扱いをどうするか
- ・国立がん研究センター発行の冊子等の提供体制の強化
- ・情報収集体制の強化

統括相談支援センターの設置

府民会議の情報提供の取組

府民会議参画団体(特に、拠点病院、府指定病院以外)へのがん情報提供強化

- 国立がん研究センター発行の冊子情報の提供(メーリングリスト)
 - ・「知って安心 がん情報」・・・4団体から配布希望
 - ・「身近な人ががんになったとき」・・・20団体から配布希望

※希望した団体の種類

- ・市町村、医療関係団体、医療保険者、患者会、金融機関等

御清聴ありがとうございました



「地域の療養情報」をツールに情報提供の府民運動を進めていきたいと思いを。

御指導よろしくお願ひします。

健診は

検索

Copyright (C) Kyoto Prefecture, Ltd.
Rights Reserved.



栃木県における がん情報普及の取り組み



<http://www.tcc.pref.tochigi.lg.jp/>

栃木県立がんセンター 病院長 清水 秀昭
同 相談支援センター 相談員・相談研修課長(保健師) 佐山由美子
同 相談支援センター 相談員(保健師) 長野 泰恵
栃木県保健福祉部健康増進課 渡辺晃紀

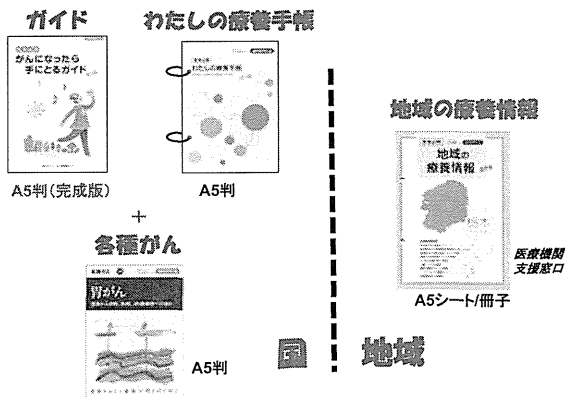
「地域における情報発信とがん患者支援」研修会 2012年11月21日

【背景】

2007年6月に策定された「がん対策推進基本計画」において、がんに関する情報を掲載したパンフレットやがん患者が必要な情報を取りまとめた患者必携を作成し、普及することが提言された。

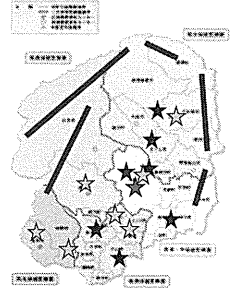
それらを受けて、「地域における患者支援のためのがん情報地域ネットワーク構築の介入モデル作成」厚生労働省研究班による検討が行なわれた。

患者必携(完成版)での変更



栃木県がん診療連携協議会

- ※ 参加組織
- がん診療連携拠点病院
 - ◇ 拠点病院 (★) 栃木県立がんセンター
 - ◇ 地域拠点病院 (☆)
 - 上野賀総合病院 済生会宇都宮病院
 - 獨協医科大学病院 自治医科大学付属病院
 - 佐野厚生総合病院
 - ◇ 県指定病院 (☆)
 - 大田原赤十字病院 足利赤十字病院
 - 県内各地域の中核病院 (★)
 - 下野賀総合病院 国際医療福祉大学塩谷病院
 - 国際医療福祉大学病院 国立病院機構栃木病院
 - 芳賀赤十字病院 小山市民病院
 - 国立病院機構宇都宮病院
 - 県医師会 (4) 県薬剤師協会
 - 県看護協会 (6) 県薬剤師協会
 - 県保健福祉部



栃木県：人口約200万人
5つの二次保健医療圏

部会の名称	主な協議内容	緩和ケア研修 WG	地域連携バス WG
(1) 研修部会	がん診療に係る研修(医師、看護師及びコメディカル)	○	○
(2) 相談支援部会	がん診療に係る相談支援に関する事項	○	○
(3) がん登録部会	院内がん登録に関する事項	○	○

【取組み】

- がん情報提供：
 - 市民公開講座等の開催
 - 地域における情報づくりと活用
- ネットワーク構築：

栃木県健康増進課と連携のもと健康福祉センター(保健所)主催で研修会を開催する。患者・家族を支援する立場にある医療・介護関係者に向けて情報提供し、ワークショップを通して顔の見える環境整備を行なう。

【目的】

栃木県における「がん患者必携」の普及活動を通して自立支援型がん情報の大切さを周知するとともに、

地域における患者支援のためのがん情報地域ネットワーク構築の介入モデル作成について検討を行なう。

【がん情報提供】

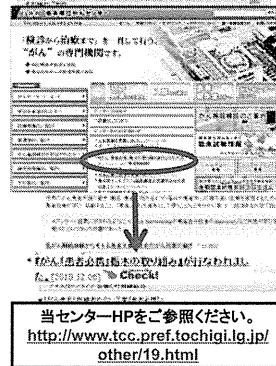
市民公開講座
がん「患者必携」
一栃木の取り組み—

普及 から支援へ
配布だけでなく、
患者さんの知りたいことを
明らかにして、
地域で支える患者支援の輪を
構築し、広げる！



公開講座の記録媒体による情報普及

ホームページ



DVDの配布



- 健康福祉センター
- 相談支援部会参加医療機関
などを通して患者・県民へ周知

患者/医療者へのアンケート調査

「栃木県立がんセンターにおけるパイロット調査」

患者/医療者へのアンケート調査

アンケート回収/年齢・性別/初発・再発

「患者必携」配布者	105
第1回アンケート回収数	101
第2回アンケート回収数	83

第2回アンケート調査用紙回収83名(2012年4月10日)をもってアンケート調査を終了

年齢	人	性別	人	初発・再発 の状況	
30歳代	5	男	63	再発	1
40歳代	10	女	42	初発	101
50歳代	15	計	105	非がん	3
60歳代	40			計	105
70歳代	29				
80歳代	6				
計	105				

患者/医療者へのアンケート調査

部位/病期別

部位	人	ステージ分類					
		0	I	II	III	IV	不明
耳鼻咽喉	4			1		2	1
食道	6		1	2	1	2	
胃	29		14	6	6	2	1
大腸	7		1	2	4		
肝	2			2			
膵	1					1	
肺	13		4	2	4	3	
乳房	9		5	2	2		
子宮・卵巣	7	1	4	1			1
前立腺	12		2	6	4		
甲状腺	2					1	1
リンパ・血液	7						
骨	1					1	
未診断	2						
非がん	3						
計	105	1	31	23	22	12	4

「患者必携：地域の療養情報 試作版(栃木)」改訂

「がん情報」とちぎ

「患者必携：地域の療養情報 試作版(栃木)」改訂

「あなたとあなたの家族のためのがんの療養情報」



<http://www.pref.tochigi.lg.jp/e04/welfare/gantaisaku/chikirroyojuho.html>

「患者必携：地域の療養情報 試作版(栃木)」改訂

「地域の療養情報：栃木版」の見直しと改訂版作成

栃木県がん診療連絡協議会相談支援部会 2011年10月6日
メンバー： 栃木県がん診療連携協議会参加施設 15病院 相談員 15名
オブザーバー： 患者家族会、支援関係団体の代表 4名

- 地域療養情報の活用の位置づけ
 - ・患者家族と支援者が一緒にみて確認できるツールとして活用
 - ・冊子を読まれただけでの情報提供では、患者家族は動けない
 - ・支援者と患者家族との相談を経た上で、その人に応じた必要な情報提供、関係機関へ連絡により具体的な支援につなげる
 - ・相談支援センターにつながるためのツールとして活用
- 内容の見直し
 - ・協議会参加施設 相談部門の詳細な情報を掲載
 - ・身近な地域での相談ができることを周知
- 掲載情報更新及び作成
 - ・A5 2色 30ページ × 4000部 (1冊30円)で予算確保
 - ・再作成の要望があれば、県として予算計上
 - ・事務局で地域療養情報(案)を作成、1月下旬 第2回の部会を開催し確定
 - ・(案)作成の過程において部会委員にもメール等で確認依頼

【ネットワーク構築】

県健康増進課と連携し、研修会開催

＜提案＞

保健福祉部／健康増進課・保健福祉課
県保健福祉センター業務に相談支援部署

- がん相談窓口(保健師の対応)
- 地域ごと、講演会

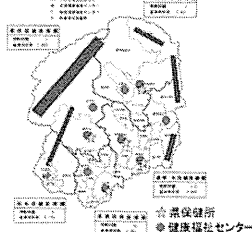
◇業務内容

- ・県／地域がん診療連携拠点病院の相談支援センター紹介
- ・がん「患者必携」パンフレット配布
- ・情報収集(「患者サロン」など)

◇研修・人材育成

- ・相談支援業務に関して、県がん診療連携拠点病院相談支援センターが主催する講習会へ参加

栃木県保健所・健康福祉センター



4疾病5事業の観点から がん情報の周知

栃木県健康増進課と連携のもと 健康福祉センター(保健所)主催で研修会

- ◇ 県南健康福祉センター研修 2010年11月4日
 - がん対策における「患者必携」の役割、地域での活用方法
 - 対象： 行政保健師 25名
訪問看護ステーション看護師・ケアマネ 12名
- ◇ 県東健康福祉センター研修 2010年12月9日
 - 介護サービスと医療機関等との連携
 - 対象： ケアサービス関係職員研修
- ◇ 県西健康福祉センター研修 2011年9月22日
 - 介護サービスと医療機関等との連携
 - 場所： 地域がん診療連携拠点病院 上都賀総合病院
 - 対象： ケアサービス関係／地域医療機関／病院職員／行政 研修

患者サポーター職種への研修およびアンケート調査

◇ 県西健康福祉センター研修会 2011年9月22日



患者サポーター職種への研修およびアンケート調査

◇ 薬局におけるがん患者・家族支援のための研修会 2012年9月19日

